

平成 20 年度 所沢商工会議所 青年部 海外視察研修会レポート

所沢商工会議所 青年部
事務局 小澤 裕樹

《渡 航 先》 ブルネイ・ダルサラーム国
《渡航期間》 H20・7・3(木)～H20・7・7(月)

【基本情報】

国旗:



地図:



正式国名:ブルネイ・ダルサラーム国 (Brunei Darussalam)

首都:バンドルスリブガワン (Bandar Seri Begawan)

人口:35 万人 (2003 年) (外国人在留者含む)

面積:5,765km² (三重県とほぼ同じ)

主要観光地:バンドルスリブガワン

言語:マレー語 (公用語)、英語、中国語等

人種:マレー系 (含その他の先住民族) 70%、中華系 11%、その他 19%

宗教:イスラム教 (国教)、キリスト教、仏教、道教等

通貨:ブルネイ・ドル、シンガポールドルと対等価値

時差:日本時間マイナス1時間。

国別 電話番号:673

公共 電話番号:警察:993/救急車:991/火災:995

旅行シーズン:4～10 月の乾期。11～3 月は北東モンスーンが吹く雨期になる。

ビザ(査証):観光目的は、14 日以内ならビザ免除。

ブルネイ・ダルサラーム国 (以下、ブルネイ) は、エネルギー資源によって潤っている豊かな国である。国民の医療費や教育費は無料、税負担も全くない。現地では、多くの日本や欧米製の現行モデルの高級車が当たり前のように市街地を走り、夕方ともなるとショッピングモールやデパートは大勢の客で賑わっていた。ちなみに最近の世界の幸福度ランキングでは、ブルネイは第9位とベスト10入りしている。(日本は第43位。)

この国では、石油の生産量によって実質GDPの成長率がすべて決まってくる。GDPのうちの大体60%が石油及び天然ガスから来ている。輸出の場合は、全体の90%が石油と天然ガス。石油が全体の大体40%で、天然ガスが50%ぐらいである。(天然ガスの輸出先はほぼ100%近くが日本である。)石油と天然ガスに非常に依存した典型的なモノカルチャー経済である。

政府の財政は、大体95%がロイヤリティーや石油関連の会社からの税収である。したがっ

て、GDPの6割、輸出の9割、それから財政収入の95%となる。

ところが、雇用面でみると、石油・ガス関連の就業者は全体の6%で、GDP60%に対して、就業構造で見るとたった6%で、その6%の人間が働いて稼いだ金で残りのブルネイ人が生活していることになる。雇用構造の最も大きい部門は政府である。政府部門が45%から50%近くを占める。特にマレー人について言うと、マレー人の大体90%が政府部門だと考えられる。全く以て、ほとんどのエネルギー資源を海外からの輸入に頼る日本とは対照的である。ちなみにブルネイでは、直近の殺人事件の発生は、約2年も前のこと。日本では、通り魔事件が相次いで発生し、いまや毎日100人程が自殺で命を失っている。

日本と大きく違う点は、エネルギー資源以外に、ブルネイは民主化が進んでいないことが挙げられる。

国王が国家元首（立憲君主制）だが国王の権限が強化されており、絶対君主制であるということが言える。首相は国王が兼任し、閣僚は、国王によって指名される。内閣は、国王が議長となり、行政執行上の問題を処理する。立法機関は、一院制の立法評議会。議員の選出は、議会の構成に関する憲法改正が行われ、公選議員も含まれている。

今年北京オリンピックが盛大に開催されたが、その中で、予てよりIOCはブルネイに対して、北京オリンピックに選手の登録をするよう努力していたが、ブルネイは結局不参加を表明した。国民がオリンピックの参加を切望していても参加するしないの判断は、結局国王の判断に委ねられる。また、現地ガイドの話の中で、ブルネイでは、数年前に当時大蔵大臣だった国王の四男が巨額の国の資金を流用していたことが発覚したが、裁かれることもなく、国民によるデモも全く無い。日本であれば、国がひっくり返ってしまうが。

日本と似ている点もある。現地日本人ガイドの説明にもあったが、ブルネイには、イギリス陸軍に属している3,600名のグルガ兵の内、約1,000名が駐屯し、国の警備等に当たっている。日本でいうと在日アメリカ軍のようなイメージが浮かぶ。また、ブルネイは、イギリスの保護領だった名残りか、イスラム教を国教としているのに、クリスマスの日が国民の祝日となっている。日本でも、クリスチャンでもないのにクリスマスの日には、街中が賑わいを見せる。自分にはほとんど無縁であるが。

私自身、海外への渡航は今回で3回目となるが、自分の英語力の無さを改めて痛感した。現地での買い物や食事の際のオーダーなどは、頭の中で浮かんできた英単語をいくつか並べれば大抵通じるが、現地の人とお互いの心の通じるコミュニケーションは全く図れなかった。仕事が忙しいからと他のせいにして、何年も前に購入してあった教材は、結局本棚に飾ってあるだけであった。今回の研修で、日頃から少しでも時間があれば勉強しなければと感じ、今はちょっとずつ英語のテキストを読み始めている。

最後になりましたが、荻野会長をはじめ青年部の皆様、親会の皆様に、事務局参加への特段のご高配を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

自身の今までの人生の中で、大変貴重で大いに意義の有る研修会となりました。

今後も青年部事業を通じて、人間的にも、仕事の的にも大きく飛躍できるよう日々頑張っていく所存であります。引き続きご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。